

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立久里小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上では、全学級で授業研究会を実施できたが、佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕の結果において記述式問題の無解答率が高いなどの課題が見られた。そのため、学校全体での取組を焦点化し、日々の授業の質的改善及び授業力の向上に努めた。また、若手教職員が増加しているため、校内で自主的な研修会を実施したい。 心の教育では、児童の自己肯定感を高める取組やより良い人間関係作りの取組を継続したい。道徳に関する児童へのアンケートについては、アンケート質問文の見直しまたは成果指標の見直しが必要である。 健康・体づくりでは、「体を動かすことが好きではない」と回答した児童が16%であるため、引き続き運動・スポーツの楽しさを味わわせ、運動習慣を形成していく必要がある。 業務改善・教職員の働き方改革の推進では、「ONとOFF」を意識した働き方改革の雰囲気醸成されつつあるため、教職員の異動があっても現在の取組を継続したい。
------------------	--

2 学校教育目標	豊かな心を培い、夢の実現に向かって、自律的に活動する子どもの育成
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①基礎基本の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善</p> <p>②他者とながら、よりよい人間関係を構築する基盤となる素直で誠実な、温かい心の育成</p> <p>③他者を認め、支え合いながら達成感を味わうための体験活動と仲間づくりの推進</p> <p>④運動・スポーツの楽しさを味わい、運動習慣の形成に向けた体育授業及び体育的行事の推進</p> <p>⑤「ONとOFF」を意識した働き方の推進と「働きがいのある」業務遂行</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
					達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	●校内研究の視点を全教職員で共有するとともに、全学級で研究授業を実施し、日々の授業改善の意識を高める。●校内で自主的な研修会を年間10回実施する。(初任者研修メンター含む)	A	●マイプランの成果指標を達成した教職員は85%であった。●校内研究で全学級において授業研究会を実施したり自主研修会を実施したりしたことで、授業改善の意識を高めることができた。●校内研究に積極的に取り組み、授業改善に努めていると回答した教職員は95%であり、昨年度より向上した。	A	●昨年度と比較して学力が向上していることは評価できる。教職員の努力がうかがえる。●読書について、一人当たりの平均貸出冊数が減少しているため、図書室に「〇〇先生のおすすめの本コーナー」を設置したり、保護者や地域住民から本の寄贈を募ったりするなどの企画を検討してはどうか。	研究部 教頭 教務
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者80%以上	●地域と連携した体験活動や学校行事等を工夫する。●平和集会や道徳に関するアンケートを実施する。●授業参観での道徳授業を年1回以上実施する。	A	●保護者へのアンケートで「子ども達のよりよい人間関係を育むための道徳教育や仲間作りを意識した取組を行っている」について93%が肯定的な回答をしていた。●教職員へのアンケートで全ての学級担任が道徳の授業を中心とした心の教育について肯定的な回答をしている。	A	●概ね児童が素直に育っている。地域の「見守り隊」もありがたい。	特活部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上	●毎月初めに「なかよしアンケート」、年2回Q-Uを実施し、分析・活用する。●生徒指導協議会及び気になる児童の情報共有を毎月1回行う。	A	●教職員の95%がいじめ防止等に組織的対応ができていると認識している。●児童の94%が、「いじめはどんな理由があってもいけないことである」に肯定的にとらえている。	A	「いじめはどんな理由があってもいけないことである」と肯定的に回答した児童の割合が、昨年度と比較して若干低下していることが気になる。●不登校や保護者同士の問題が発生した場合、地域の行政連絡員等も可能ならば協力したい。	生活部
	◎児童が目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	●仲間作り、縦割り班での異学年交流、全校での集会活動等を通して、より良い人間関係の構築を図る。●年間を通して児童一人一人の善い行いや頑張りを見取り、放送したり表彰したりすることで自己肯定感を高める。	A	●児童の87%が「将来の夢や目標を持っている」と回答している。●児童の88%が「縦割り班が楽しい」と回答している。	A	●縦割り班や集団登校で異学年のコミュニケーションができている。●登下校では、自動車での送迎が多くなっているのではないかと。	特活部
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上	●マラソン大会、なわとび大会等の体育的行事を設定し、それぞれの児童がめあてをもって運動に取り組めるようにする。●日常の学校生活での外遊びを推奨する。さらに、「スポーツチャレンジ」の取組を推奨することで、手軽な運動に進んで取り組めるようにする。●食に関する授業を実施する。●給食委員会が中心となり、食事の栄養やバランス等を考える取組を行う。●児童の実態を把握し、保健だよりや体験授業等を通して、食育の大切さを保護者へ知らせる。	A	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は73%であった。●体を動かすことが好きな児童は85%であった。●給食委員会や保健委員会が中心となり、給食についての取組を進めた結果、「健康のためには食事が大切」と回答した児童は95%であった。●朝食は95%の児童が毎日食べていると回答していた。	A	●概ね評価できるが、体を動かすことが好きではない児童をどうするかが課題であろう。運動や食事は生涯健康に過ごすために重要であることをもっと指導してはどうか。	保体部
	②望ましい食習慣と食の自己管理能力	②「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	●管理職が時間外勤務の状況を把握し、全体または個別に適宜声をかける。●職員会議等の時間短縮やさらなる業務の精選、職員の協力体制づくりに努める。●定時退勤日を週1日設定し、徹底する。	A	●時間外勤務については、全職員が月45時間以内を遵守できている。●定時退勤日の徹底だけでなく、若手に個別に声をかけ続けたところ、働き方改革の意識が高まりつつある。●職員の協力体制づくりについては、全員が肯定的な回答をしていた。	A	●継続してほしい。若手教職員が業務の要領をつかむまでには時間がかかるであろうから、バランスを取りながら上手に育成してほしい。	教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●管理職が時間外勤務の状況を把握し、全体または個別に適宜声をかける。●職員会議等の時間短縮やさらなる業務の精選、職員の協力体制づくりに努める。●定時退勤日を週1日設定し、徹底する。	A	●時間外勤務については、全職員が月45時間以内を遵守できている。●定時退勤日の徹底だけでなく、若手に個別に声をかけ続けたところ、働き方改革の意識が高まりつつある。●職員の協力体制づくりについては、全員が肯定的な回答をしていた。	A	●継続してほしい。若手教職員が業務の要領をつかむまでには時間がかかるであろうから、バランスを取りながら上手に育成してほしい。	教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上では、全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕の結果において県平均正答率を上回る学年や昨年度との経年比較で向上が見られた学年があった。今後もベテランと中堅、若手が共に研鑽を重ね、組織的に日々の授業の質的改善及び授業力の向上に努めたい。 心の教育では、児童の自己肯定感を高める取組やより良い人間関係作りの取組を継続したい。また、キャリア教育で地域人材を活用したい。 健康・体づくりでは、「体を動かすことが好きではない」と回答した児童もいるため、引き続き運動・スポーツの楽しさを味わわせ、運動習慣を形成していく必要がある。 業務改善・教職員の働き方改革の推進では、年間を通して全職員が時間外在校等時間の上限を遵守し、「ONとOFF」を意識した働き方改革の雰囲気醸成されつつある。今後、教職員の異動があっても現在の取組を継続したい。
--------------------	--